

40. クロソイ *Sebastes schlegelii* Hilgendorf

図版16

英名 jacobever, kurosoi rockfish

露名 тихоокеанский морской ёрш, чёрный морской окунь
チホオケアンスキー モルスコイ ヨルシ チョルスイ モルスコイ オクニ

地方名(北海道) クロソイ、ナガラソイ

漢字 黒曹以

アイヌ語名 ソイ

【形態】 体は側扁*する。上あごの上方に下向きの棘*が3本ある。背びれには切れ込みがあり、その前は棘条*、後は前方の1棘条を除き軟条*である。尻びれの後縁は丸い。鰓耙*は細長い。全長*5cmくらいまでは体側に暗褐色の横帯*があり、その後は全体的に灰黒色か灰褐色になる。2本の黒色帯が眼から後方に斜め下に走る。成魚*は外見から雌雄を判断でき、雄は肛門直後の部分に生殖突起*が突き出る。全長60cmになる。

体形や体色がよく似たキツネメバル *Sebastes vulpes* は、上あごの上方に3本の棘がないので、区別できる。

【生態】 日本各地、朝鮮半島および中国の沿岸に分布。北海道では日本海側やオホーツク海側に多く、太平洋側には少ない。

本種は胎生*魚で、卵巣内の胚*発生の過程で親から栄養をもらい、仔魚*の状態^{しぎよ}で産み出される。仔魚は表層を浮遊し、稚魚*期から2歳の9月ごろまで

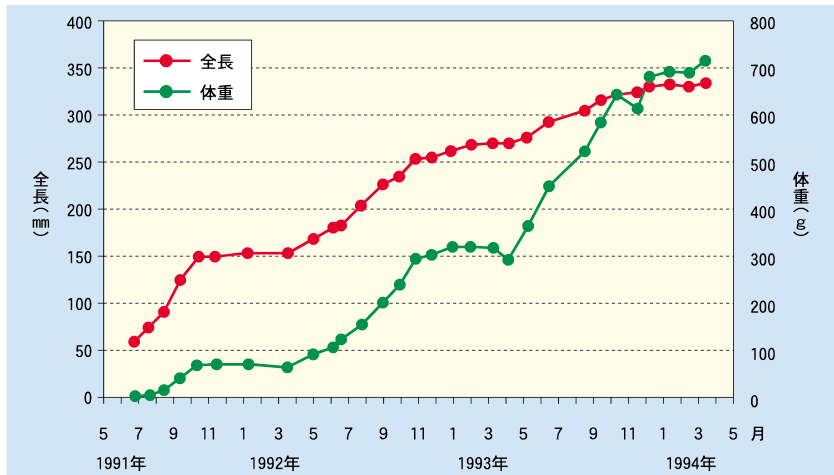
は防波堤や岸近くの藻場*や岩礁域もぼ がんしょうにすむが、秋から冬にかけて水深50～100mの岩礁域に移動する。性成熟*した雄と雌は水深40～50mの岩礁域で交尾*し、妊娠した雌は出産のためにより浅い所へ移動する。

日本海側の寿都町沿岸では、雌は3歳、全長30cm、雄は2歳、全長26cmで性成熟するものが現れ始める。他海域と比べると、初めて成熟*する年齢は同じだが全長は雌雄とも小さい。年齢別の成熟魚の割合は、雌では3歳で5%、4歳で72%、5歳で96%、6歳以上で100%、雄では2歳で10%、3歳で87%、4歳以上で100%である。全長と成熟魚の割合との関係は、雄では29cmで50%、37cm以上で100%、雌では32cmで50%、35cm以上で100%である。

北海道での交尾期は10～翌1月。交尾時に精子は雌の卵巣内に送り込まれるが、この時、卵巣がまだ未熟*なため精子は一時休眠し、卵が成熟する4～5月に活性化して受精する。抱卵*する卵の数は受精し発生が進むにつれて減る。ふ化直前の卵を持つ親魚の抱卵数*は、全長32～34cmで4万4,000～5万3,000粒、40～46cmで9万9,000～18万4,000粒、60cmで78万粒。

受精後、発生に伴い卵の色が変わるので、その色から卵の発生段階がだいたい分かる。未受精の成熟卵*は淡黄色、発生初期は明るい黄色、眼胞*がんぼう発現期はヤマブキ色、眼胞色素沈着期（発眼*期）は灰緑色、血液循環期は濃い黄緑色、ふ化直前は暗緑色。受精から出産までは、平均水温10.4℃で46日。

出産期は北海道では5月下旬～6月、新潟県や秋田県では5月が中心で、南ほど早い。出産は日没から夜半に及び、午後10時～午前1時ごろに盛ん。出産後、雌の親魚は胸びれを激しく振り動かして帯状の仔魚の塊をあおり拡



寿都町周辺におけるクロソイの3歳までの成長

散させる。この行動はファンニングと呼ばれ、仔魚の生き残りには不可欠で、これを受けられなかった仔魚は泳ぎ始めることができずに死ぬ。

出産直後の仔魚は、卵黄の吸収が完了した後期仔魚*で、卵生*魚のふ化仔魚よりも発生が進んでいる。全長は6～7mmで胸びれと尾柄*部を活発に動かし、流れの来る方向や明るい方へ向かう習性を持つ。水温10～18℃の飼育下での仔魚の成長は、出産後10日で全長8.3mm、20日で12mm、30日で15mm。出産から約2カ月後に20～30mmの稚魚となり、海底での生活に入る。

年齢は耳石*の輪紋の数で分かる。本種は北海道近海のソイ・メバル類のなかで最も成長が良い。寿都沿岸では満1歳で全長13cm、2歳で22cm、3歳で28cm、4歳で33cm、5歳で38cmになる。成長は5～11月に速く、水温10℃以下の12～翌3月にはほとんど成長しない。

餌となる生物は、仔魚では魚卵やカイアシ類*などの動物プランクトン、稚魚ではヨコエビ類*、アミ類*、モエビ類、エビジャコ類*、カイアシ類*などさまざま。全長15cmぐらいからは魚類も食うようになる。成魚では魚類が最も多く、ほかにはエビ類、イカ類、ゴカイ類*など。餌となる魚の種類は季節によって異なり、春にはイカナゴやスケトウダラ幼魚*、秋にはイワシ類、マサバ幼魚などが多い。